

あけまして おめでとうございます

昨年は大変お世話になりました
本年もどうぞよろしく申し上げます

さて、今年は十二支の中でも最後の年、亥年です。
「亥」は（関 とぎすの意味）で、
「草木の生命力が種の中に閉じ込められた状態」
という意味があるそうです。
子年から始まった一つの流れが、
亥年でいったん終わりを告げる年です。

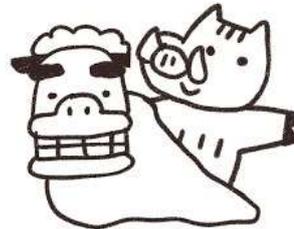


終わりというと寂しいイメージですが、
この終わりは実をつけ、種子を宿す終わりです。
終わりであると同時に、
次の始まりに向けて新たなエネルギーを蓄える年でもあるのです。

イノシシは身体についたダニやノミを落とすため泥浴びをします。
そんなイノシシの習性を題材にしたジャータカ物語を紐解いてみましょう。

～ ジャータカ物語「糞まみれのイノシシ」 ～

ヒマラヤ山中の洞窟にライオンが住んでいました。
近くの湖のほとりには、たくさんのイノシシが住んでおり
また、その近くには、多くの苦行者たちが住んでいました。



ある日、ライオンが、一匹の水牛を食べて満腹になり、湖で水を飲んでいると、
一匹のイノシシが獲物を探しにやってきました。
ライオンは「今はお腹が大きいが、今度、こいつを食べてやろう」
と思い、静かに湖から離れようとしていました。



イノシシはそれを見て、
「このライオンは、俺を見て怖がって逃げようとしている」
と思いあがり、ライオンに戦いを挑みました。
ライオンは「今日は君と戦うつもりはない。
七日後にここで戦おう」と挑戦を受けて、立ち去りました

話を聞いた親族のイノシシたちは恐ろしさに震え、
「バカ者め。何という身の程知らずだ」と責めました。
親族の中の知恵者が「いい方法がある。苦行者たちの便所に行き、
大小便の上で七日間の間、転がって身体を糞まみれにするのだ。
ライオンはおまえの不潔な姿を見たら、きっと戦わずに、勝ちをゆずるだろう」

戦いの当日、イノシシの体は大小便だらけの恐ろしく汚い有様になりました。
ライオンは「こんな汚いやつに触れることはできない」といって、
他の獲物を捕り、湖の水を飲んで、山の洞窟に戻りました。
イノシシは「俺は勝ったぞ。ライオンを負かしたぞ」と威張って言いました。
親族たちはその頭の悪さにあきれ「こいつとここには自分たちの命が危ない」
と、よそへ逃げて行きました。

さて、このイノシシのように自惚れることなく、身の丈に合った生き方をしようと
自重しつつ、干支締めくくりの一年を過ごしたいものです。

大智寺だより

平成 31 年 陸月
Vol.103

発行所
大智寺

岐阜市山県北野
668-1

電話：058-229-1532

◀Mail▶

hybsr245@ybb.ne.jp

◀ホームページ▶

大智寺

検索

<http://www.daichiji.com>

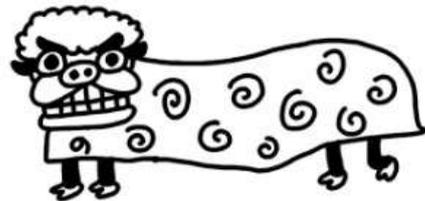
当紙は、大智寺本堂及び墓地
の水小屋にてご自由にお取り
いただけます。
又、当寺ホームページにて
過去すべての紙面をご覧いた
だけます。ご活用ください。

12月号発行部数
200部

ご愛読
ありがとうございます

だいはんによえ
1月15日(火) 大般若会

10:00~法要・11:00~うどん接待・13:00~お焚き上げ



毎年お檀家様にお配りしております新年の大般若札の御祈禱を1月15日に行います。

大般若会とは、「大般若経」六百巻を転読することによって、すべての苦厄を消しさり、五穀豊穡や国家安寧を祈念する大法要です。



この大般若会では、十六善神の掛け軸を本堂正面にかけます。この掛け軸には、遠くインドからお経を持ち帰る玄奘三蔵法師が描かれており、その周りに「般若守護の善神」である十六善神が描かれています。十六善神とは、四天王と十二神将と合わせた合計十六名の神々です。

今までお正月にはこの十六善神の紹介をしてきましたが、今回はちょっと番外編で天部に住んでいる摩利支天(まりしてん)という女神様をご紹介したいと思います。

～ 摩利支天(まりしてん)のお話 ～

摩利支天は、仏教を守護する天部の神です。

陽炎(かげろう)を神格化した女神で、常に陽光の先を進みます。

陽炎(かげろう)のように実体がなく

姿は見え、捕らえることもできないので、他から害されることなく、光(時)の前を進み、進路の障害になる災難や厄を除くとされています。



摩利支天の名をあまり耳にしたことがないかと思われませんが、この女神様はなんとイノシシの背に乗っています。

イノシシに乗って素早く移動し、しかも姿がごくごく小さいため、実体が見えず、他からの攻撃を受けにくいのです。

そのため戦国時代には、武士や忍者の間で「守り本尊・戦勝の神」として信仰され、出陣に際しては矢玉にも当たらず勝利するとして鎧の中に秘めてお守りとされたといわれます。

摩利支天は、創造神ブラフマー(梵天)の子といわれ、

その昔帝釈天と阿修羅が戦ったときに

帝釈天の支配する月と太陽の光をさえぎり

阿修羅の攻撃から守ったといわれています。

三面六臂(さんめんろっぴ)で、

三つの顔のうち一面がイノシシの顔になっており、

また六臂それぞれに持つものは、

弓・箭・針・線・鉤・羅索・金剛杵などの武器です。

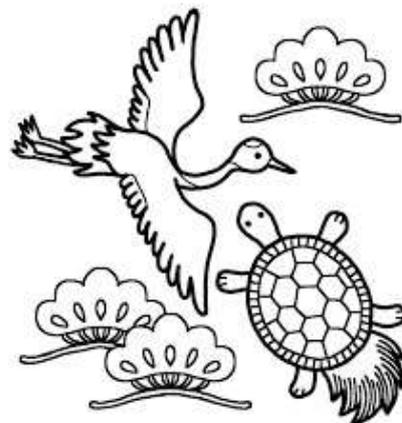
「日本三大摩利支天」というのがあり

金沢の宝泉寺(ほうせんじ)、上野アメ横の徳大寺(とくだいじ)、

そして京都建仁寺(けんんにんじ)の塔頭(たちゅう)禅居庵(ぜんきょあん)です。

真言宗、日蓮宗、臨済宗と宗派はまったくバラバラですが、

それぞれの摩利支天に独自の由緒があり、また像のかたちも異なります。



今年の干支に合わせて、イノシシにゆかりの深いこの摩利支天を今回は取り上げてみました。

猪車に乗りて立つこと舞踏の如し(『大摩里支菩薩経』)と説明される摩利支天、

仏法を守る守護神にはこんな方もいることに思いを馳せながら

当日は、大般若経を命懸けで広めた玄奘法師の偉業に手を合わせたいと思います。

どなた様もどうぞお気をつけておでかけください。

～ 日常を豊かに『発菩提心空拳章（通称：菩提和讃）』 ～



お経のやさしい和訳（和讃）から
毎日の生活を 心豊かに

大智寺檀信徒日課經典
31ページより
51

「此身このみが即すなわち仏ほとけにて 仏ほとけが仏ほとけを念ねんずれば」

お坊さんが禅の境地を表すために描く一円相をご覧になったことはありますか？
太い筆で○を描くので、始まりには力が入っており、終わりの方はちょっと筆がかすれています。
でもしっかり○になっています。始まって終わってまた始まって終わって。起点と終点であると同時に、
誕生と死を意味しているとも、迷いと悟りを意味しているとも言われています。

不思議なもので、生まれてから何度も名前を呼ばれているうちに、
いつの間にか自分の名前を認識し、信じて疑わなくなります。
「この身即ち仏にて」とは、にわかに信じがたく違和感ある部分ではないかと思えます。
ただ仏としての○を描いている永遠の命の中で、
たまたま仏の現われ方が人間なのだとしたらどうでしょうか。
父母が呼んでくれた名前をもつ以前に、人間として生を得る以前に、
「永遠の○を描き続けている仏である」という認識に立ちみるとわかりやすいかもしれません。
「この身即ち仏にて」をじっくり再確認した上で、読経をしてみてください。
お経は、「自分が読む」のではなく「仏様の声を聞く」ものです。
自分の声だと思っている間は、仏様の声は聞こえません。

今月のテーマ

皆様、新春の御祝いを申し上げます。

お正月ぐらいいゆっくりに寝たいところですが、私は相変わらず寝不足の日々です。こう
夜な夜な1才児にたたき起こされると、
眠らせるコツはないものかとアレコレ試しま
すが、結局自分の寝息と体温が一番効果があ
りそうです。おかげで、やたら鼻息が大袈裟
になったり、寝たふりが上手になったりしま
す（笑）隣に寝息を立てている人がいるとい
う気配だけで再び眠りに入る横顔を見つつ、
これは幼子だけに限らないのではないかと思
えてきます。

独り来たり独り去りて、一も随う者無し
（大無量寿経）

独りこの世に生まれ来て、また眠りの世界
に去っていく。何を言ったか、何をやったか、
生きざまがどうであったか、そんなことより
も、独り起き、赤子のようにわあわあ泣き、
また独り眠る為の安心を得ることが人生なの
かもしれない。そう考えると、人間という
宿命をもつ自分は「人の間」に生き、その温
もりや息づかいを全身で感じていれば、それ
だけで「おりこうさん」じゃないか、と母と
しては花丸満点をあげたい気持ちになります
やりがいや幸せ、達成感を追いかけて、良か
れ悪しかれ人生の彩りとなり、自他の評価は
様々であったとしても、最終には文句なしの
花丸満点と思えば、自ずと晴れやかな気分
になる正月早々おめでたい寝不足な母です（笑）

～ シリーズ いますぐできる精進の味 ～

♪ お寺のぶきっちゃんでも簡単に作れた ヘルシーなお味 ♪

断面がりんごの層になる インビジブルケーキ

- ① 卵2個ボールに割り入れ、砂糖40gと混ぜ合わせ、
- ② 牛乳70cc、溶かしバター40gを加えてまた混ぜ合わせ、小麦粉80gを加えて、また混ぜる。
- ③ その中に薄切りのリンゴ1個～2個分入れて全体をかき混ぜる。
- ④ 耐熱皿にリンゴを平らに重ねて最後に残った液体を上からかける。
- ⑤ オーブン180度で一時間焼く。



私は小麦粉も振るわずにドバツと入れます。リンゴは4分の1カットにした上で薄切りします。
型にリンゴを寝かせて平たく重ねるのが少々めんどくさいですが、おいしいですよ。

♪ 月に一度はお寺まいり ♪

初心者 大歓迎
東日本大震災物故者追善供養
毎月 第四日曜日
定例写経会

今月の日程

1月27日(日) 一回 500円
(朝8時~9時) (内300円は義援金)
要申込

12月写経会 備忘録

今年最後の写経会、皆様ありがとうございました。今年1月から12月までの災害義援金は合計4万8千300円でした。一年分をまとめて12月25日に妙心寺宗務本所へ送金させていただきました。被災地の方々のお力になれば幸いです。一年ありがとうございました。



お釈迦様が生きていた頃
あんな人、こんな人

第二十二話 「なんでもどうぞ
アディムッタさん」



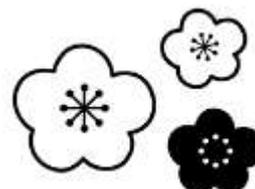
ブッダの弟子で、すでに長老と呼ばれるようになっていたアディムッタさんが町に住む母に会いに行こうと精舎を出ました。母の家の前まで来たところ突然、物陰から片手に大刀を持った大男が踊り出てきました。

しかし、アディムッタさんは少しも驚きません。

「ここはお前の家か」「母の家だ」

「それはちょうどよい、命が惜しければ家の有り金全部差し出せ」
男が脅かします。

「家は貧乏、私は出家、お金も物も何もないよ」



「変な坊主だ。我らは今までに何人も切り殺したことのある盗賊だぞ。

皆、泣きわめき、命乞いをして金品を差し出した。お前は怖くないのか」

アディムッタさんは顔色明るく、目は澄んでいて、動じる様子が少しもありません。

「私は清らかな行いをよく実践してきた。真理を得た者は、心の苦しみも何の束縛もない。

例えば重い荷物を肩から下ろしてほっとした気持ち、そこには恐怖も苦しみもない。

本当に欲しいなら何でも奪えばよろしい。私は何の恨みもない」

盗賊はアディムッタさんの揺るぎない態度と心に度肝を抜かれ、その場に平伏し、出家したそうです。

ご自宅で お寺で 市営斎場で 営む
家族葬

ご家族・ご親族のみの家族葬をお考えの場合、ご自宅や市営斎場を会場に営むことができます。

また大智寺を会場にお使い頂くこともできますが、その場合、指定の葬儀社をお寺でご案内致します。必ず前もってご相談ください。

家族葬をご検討される場合は、葬儀社のこと、葬儀会場のことなど含めてまずはお寺までご相談ください。

完全個別永代供養墓

1区画：38万円～
(墓石代金含む)

「永代供養墓」とは、将来お墓を守りする方がいなくても、お寺がご供養させて頂くお墓です。

大智寺の永代供養墓は、ご夫婦・ご家族一緒にひとつのお墓にお眠りいただけるタイプです。永代にわたり、他の方のお骨と混じらないことから「完全個別永代供養墓」といいます。

詳しくは、ご見学を含めてご説明しますので、ご予約の上 ご来山ください。